

令和5年度 国語科

教科	国語	科目	国語B	単位数	2	年次/コース	中学1年生/特進
使用教科書	教育出版『伝え合う言葉 中学国語1』						
副教材など	『徹底演習テキスト』・『国語便覧』						

1. 学習の到達目標

<p>●科目について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。</li> <li>・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。</li> </ul> <p>●コンピテンシーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</li> </ul>
---

2. 学習方法について

<p>●授業中において</p>          <p>●家庭学習において</p>
---

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	①：知識・技能	②：思考・判断・表現	③：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	古文・漢文などの伝統的な言語文化や、文法などの言葉のきまりについて理解し、知識を身につける。	文章やテーマに沿って自分の考えを深め、適切な語彙や表現、漢字を用い、伝えることができる。	課題に対し、学習の見通しをもって最後まであきらめずに考え取り組もうとしている。 他者と協働、また、より良い表現方法を模索することで、自分の能力を高めようとする。
評 価 方 法	定期考査 パフォーマンス課題 リフレクション	パフォーマンス課題 リフレクション	パフォーマンス課題 リフレクション

上に示す観点・評価方法に基づいて、各観点で評価し、学期末に当該学期の観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。また、学年末に年度を通しての観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1～5の

5段階)にまとめます。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			①	②	③		
1 学期	書写（硬筆） 「字をきれいに書こう」	字形の整え方と筆順のきまりを理解して書く。			○	C：字の形を意識して、枠の中におさまるように書くことができる。	定期考査 パフォーマンス課題 リフレクション
	文法の小窓 1「言葉の単位」	言葉の単位について理解を深め、主語・述語などの文の成分の役割について知識を定着する。	○	○		A：言葉の単位について理解を深め、文の成分の役割などを分類できるようになる。 B：条件に合わせて文の成分を作り、文を完成することができる	
	文法の小窓 2「文の成分」 (5時間)						
	お気に入りの一品を紹介する (2～3時間)	伝えたいことを明確にして、お気に入りの一品について書き、発表する。		○	○	B：人の発表を聞き、どのような点が良かったのかを伝える。 C：自分の伝えたいことを明確にして、お気に入りの作品についてまとめる。	
	1学期中間考						

	査						
	<p>文法の小窓 3 「単語のいろいろ」 (4～5 時間)</p>	<p>自立語と付属語、活用の有無などの分類の基準について理解し、基本的な品詞を見分ける。</p>	○	○		<p>A：品詞の分類を見分けることができる。 B：条件に合った品詞を用いて、文を作ることができる。</p>	<p>定期考査 パフォーマンス課題 リフレクション</p>
	<p>問題演習 (小説的文章) (1 時間)</p>	<p>登場人物の心情や行動に注目し、展開の流れを理解する。</p>	○	○	○	<p>A：登場人物の心情や行動の言葉に注目する。 B：心情を理解して読み進める。 C：根拠を持って、答えを伝える。</p>	
	1 学期期末考査						
2 学期	<p>昔話と古典 (2 時間)</p>	<p>古典にはさまざまな作品があることを知り、歴史的仮名遣いに触れる。</p>	○	○	○	<p>A：音読に必要な決まりを知り、歴史的仮名遣いのルールを理解する。 B：場面の展開や心情の変化を、描写をもとに捉えている。 C：積極的に古典文学に親しむ。</p>	<p>定期考査 パフォーマンス課題 リフレクション</p>
	<p>「物語の始まりー竹取物語ー」 (6～7 時間)</p>	<p>歴史的仮名遣いに注意して音読し、物語の理解を深め、『竹取物語』について調べる</p>	○	○	○	<p>A：音読に必要な決まりを知り、歴史的仮名遣いのルールを理解する。 B：場面の展開や心情の変化を、描写をもとに捉えている。 C：積極的に古典文学に親しみ、他の作品にも興味を持つ。</p>	

<p>書写（硬筆）</p> <p>「楷書と仮名を調和させて書こう」</p> <p>（1時間）</p> <p>2学期中間考査</p>	<p>ことで、おもしろさを発見する。</p> <p>授業で習った部分を、文字のバランスを見ながら書く。</p>	○	○	<p>A：字の形を意識して書くことができる。</p> <p>C：楷書と仮名を調和させるために必要なことを考えることができる。</p>	
<p>故事成語</p> <p>（6時間）</p> <p>随筆を書く</p> <p>（2～3時間）</p> <p>2学期期末考査</p>	<p>いろいろな故事成語について由来や意味を理解し、また漢文訓読の決まりを理解する。</p> <p>身近に起きたことや経験したことをまとめて、叙述のしかたを考える。</p>	○	○	<p>A：漢文の訓読法を学び、故事成語の知識を深める。</p> <p>C：故事成語の由来や意味を粘り強く理解し、文章を読んで考えたことを伝え合う。</p> <p>A：事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする。</p> <p>B：読み手の立場に立って、表記や語句の方法、叙述の方法を確かめる。</p> <p>C：粘り強く叙述の仕方などを考える。</p>	<p>定期考査</p> <p>パフォーマンス課題</p> <p>リフレクション</p>

3 学 期	活用形・活用の種類について  (6～7時間)  読み手を意識して報告文を整える。  (2～3時間)	動詞の活用形・活用の種類について学ぶ。    要点を簡潔にまとめ、読み手の立場に立って、文章を整える。	○	○		<p>A：単語の切り方について復習し、活用形を見分けるポイントを理解する。</p> <p>B：理解した活用形や活用の種類に合わせて、文を分解し、分類する。</p> <p>A：事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする。また、原因と結果、意見と根拠など、情報と情報の関係について理解する。</p> <p>B：読み手の立場に立って、表記や語句の方法、叙述の方法を確かめる。</p> <p>C：粘り強く叙述の仕方などを考える。</p>	定期考査 パフォーマンス課題 リフレクション